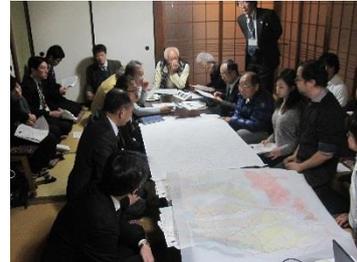


北条旧市街地のビジョンについて議論しました！

先生方より町並み魅力発掘調査の中間報告と、市より「北条旧市街地ビジョン（素案）」のとりまとめが提案されました。

その後「北条のまちづくりの方向性や将来像」「先導プロジェクトの進め方（拠点整備）」のテーマに基づき、全体での意見交換がされました。



町並み魅力発掘調査

山崎先生と工藤先生より、調査の中間報告をお聞きました！

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の山崎先生、国立明石工業高等専門学校建築学科の工藤先生より、北条旧市街地の地形・水系、地割等からみるまちの成り立ちやストーリーについてお話を伺いました。

～中間報告（概要）～

北条旧市街地は在郷町として、中世・近世・近代の変遷とともに門前町、市場町、商家町を形成してきた 1300 年の奥深い歴史が息づいている

●北条のまちを形成した地形、水系

- ・扇状地と谷からなる地形、水系
- ・まちの中心となる道、格式の高い道（門前）
- ・門前町としての発展～中世～

●時代の変遷に伴う町の拡大

- ・西から東へ、谷を埋め（埋まり）隣の扇状地をつなぐように町が拡大
- ・市場町としての発展、豪商のまちへ～近世～
- ・大正・昭和の賑わい～近代～

●歴史が裏付ける上質な“居住地”としての北条

立地（少し高台、安定した土地等）や、古くから人が住み続けていることが証明する「安全・安心、住みよいまち」という歴史的な裏付け

～中間報告を受けた皆さんの感想、意見～

江戸時代、米を江戸に持って行っていた。土は粘土質で良いようだ。

（地形の話に対して）今住んでいる家の近くに、少し高いところがある！

今のように、昔の技術では谷を埋めることはできなかったのでは？！

（五百羅漢～横尾をつなぐ道について）学校の運動場ができる前は、そこに道が通っていた。階段はまだある！

まちをつなぐ役割として、春陽堂の動きはちょうどよいのでは？！

第3回ワークショップでの意見

■実施日
12月5日

■場所
旧洋品たなか
(立花邸)

①北条のまちづくりの方向性、将来像について

◆住民意見の反映・醸成

- ・住んで、生活している人の意見が大切
- ・まち全体としてやっている感じではないとしみじみと感じる

◆管理主体等の課題

- ・長い間かかってコミュニケーションをつくってきたところに、かき回されると困る
- ・空き家を所有している人がまちから出て行ってしまい、どうしようもない
- ・空き家を借りるにしても、任意団体との契約で賃貸契約のトラブルがあるようなことを聞く
- ・借りる主体が決まれば、そこが責任を持って地域の人とコミュニケーションをとったりして、選択肢が増える

②先導プロジェクトの進め方について

◆(春陽堂)拠点の機能・進め方

- ・目的としては、地域の方の交流拠点がメインである。今後活動したいという若い人が出てきたときに、地域の方の顔が見えたり、つなげたりできるようにしたい。
- ・管理していくのは、今は宿はくのメンバーだが、していきたくて人が出てくればいいと思う
- ・空き家がこういうふうに使えるということを見える形にしていきたい
- ・目的に向けて借りるのを有償にするか、無償にするかについて議論している最中
- ・トイレの整備等も含めて、そういうところをみんなで議論していきたい

◆費用等の課題

- ・費用がかかるので、それを誰が払うのか考えてほしい
- ・費用を稼ぐための手立てを考えないとだめだと思う
- ・数年間とかは補助金等の費用が出ると思うが、商売として成り立たないと続かない
- ・補助金なしで、自立したやり方ができないか

当日の様子



今年度の9月～12月にかけて実施していただいた調査結果について、地図を示しながら先生方より中間報告をいただきました。



第1回、第2回ワークショップを経て、とりまとめた「北条旧市街地ビジョン(素案)」が市より提案されました。



先導プロジェクトの進め方等について意見交換を行い、最後はメンバー全員から今回のWSに参加した感想をいただきました。